

科目名		病態制御内科学演習	
科目責任者	中山田 真 吾	(第1内科学 教授)	
担当者	久 保 智 史	(第1内科学 准教授)	
	山形 薫	(第1内科学 講師)	
開講時期:	2～3年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 45 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>臨床免疫学、リウマチ学、内分泌学、代謝学(糖尿病学)、感染症学等の全身性内科疾患を中心に内科学全般にわたる幅広い基礎知識を討論、抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会、学会等の多彩な機会を介して実践的に習得する。また、大学院生自らの発表、議論を通じてプレゼンテーションおよびディスカッション能力を習得する。これらの演習を通じて、現在の内科学、及び、内科疾患の病態制御における潮流を実感することで、自らの研究テーマを見出すと同時に、自身の研究テーマや成果の問題点を解決していく能力の獲得を目指す。また、自身の研究テーマの展開を考察する事により、新たな研究テーマの創出や長期的展望を持つ能力の習得を目指す。さらに、内科専門医に加え、リウマチ専門医、糖尿病専門医、内分泌専門医、感染症専門医などのサブスペシャリティ分野の専門医取得を在学中に目指す。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を理解する。 2) リウマチ・膠原病疾患、内分泌・代謝疾患、感染症に関する研究テーマを見出すことができる。 3) 各自のテーマが疾患の病態解明、治療応用に果たす意義を見出すことができる。 4) 将来的な長期展望に立脚した研究構築を確立する。 5) 各自のテーマの臨床応用への展望をその遂行性ととも論じることができる。 6) 最先端の情報を入手して自分のテーマに活用する様々な手法を獲得する。 7) 各自のテーマの学術的意義を産業保健への貢献と関連づけて考察することができる。 8) 各自のテーマの意義、問題点を論理的に発表、議論することができる。 9) 各自のテーマの学術的意義を産業保健への貢献と関連づけて考察することができる。 10) 膠原病リウマチ学のアンメットニーズを理解し、その克服のための手法を論じることができる。 11) 内分泌代謝学のアンメットニーズを理解し、その克服のための手法を論じることができる。 12) 内科専門医に加え、リウマチ専門医、内分泌専門医、糖尿病専門医などの取得をめざす。 			
● 評価方法	発表等 60%、討論等 20%、レポート等 20%により総合的に評価する。		
● 参考文献	演習の中で必要に応じ紹介する。		